

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	発達支援センターあさくち（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和 7年 11月 1日	～	令和 7年 12月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	令和 7年 11月 1日	～	令和 7年 12月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者の送迎のため、送迎時に保護者の困り感を聞いたり、療育の様子や説明など伝えやすい。	送迎時に、保護者の困り感や相談事等合った場合には、タイムリーに話を聞くことができるように、懇談を実施したり、懇談	発信の少ない保護者にも、積極的に話を聞けるように定期的に懇談の予定を組んで実施することができるようにする。
2	母子療育で、保護者に療育参加をしてもらいながら、療育の意味合いなどを伝えるようにしている。	母子療育で、親子遊びを取り入れスキンシップをしっかりと取ることが家庭でもできるように、家でできる遊びや関わりのポイント等を療育を通して伝えるようにしている。食事面等も、おやつ時間を設けて咀嚼の様子を見ながらアドバイス	母子療育時に、一緒に参加している保護者同士で情報交換やコミュニケーションができるような時間も設定したり、積極的に保護者同士のつながりができるような場を作っていく。
3	座談会を実施し、普段の子どもの様子や、保護者同士の連携や情報交換を作る場を設けている。	年に2回以上は、座談会や参観日をする計画をし実施している。参観日では、普段の様子が見れるように普段の様子をビデオに取って落ち着いて見れるようにしたり、ビデオを見ながら療育の意味合いを伝えたりするようにしたり、関わり方のポイントや保護者の悩みを聞きながら、対応方法など一緒に考えたりするようにしている。	座談会で、言葉の悩みや箸の持ち方等の悩みも聞かれたので、言語聴覚士等の専門的な先生を招いて、言葉や手先の発達等の話を聞いたり、アドバイスをもらう機会を作って保護者が子どもと関わるヒントにできるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練の実施はしているものの、報告が十分できていなかった。	送迎時に、口頭での簡単な報告になっている。引き渡し訓練等は行っていないため、保護者を巻き込んだ避難訓練等が少なかった。定期的に避難訓練はしているものの、実施が少ない面もあった。	避難訓練の様子を、写真等で伝えたり避難経路など、もっと分かりやすく掲示するようにしている。引き渡し訓練なども取り入れ、保護者にも災害時の対応を経験してもらう機会を作る。
2	建物老朽化、耐震の弱さ。	庭が広く近くに散歩コースや広場等あり環境的には良いが、古民家であるため老朽化や耐震の弱さがある。	事業所の場所を移転する等も検討していたが、人員不足もあり、事業所の継続の難しさもあり、閉所することとした。
3			